

VSCode の設定を保存するファイル名は、 です。この**設定ファイル**には2種類あり、それぞれ ・**フォルダ**という単位で設定を行う事ができます。さらに、拡張子が **code-workspace** というファイルは**ワークスペース**の設定ファイルで、複数のフォルダを一つの単位として設定します。一つ目は最も基本となるもので、他の二つが存在しない場合は + , で表示される設定画面にはそのタブとワークスペースしか存在しません。(フォルダの設定ファイルは、ワークスペースの内容をデフォルトから更新するとそのフォルダに フォルダを作成してその中に保存します)

設定ファイルは、この設定画面を表示した時に右上に表示されるアイコンで(設定(JSON)を開く)をクリックするとエディタで開かれます。キーボードショートカットに、**revealFileInOS コマンド**に対して + + E を登録していますので、そのキーでエクスプローラでその場所を開く事ができます(**explore の E** と覚えましょう)。このショートカットは、開いてるファイルやツリーのフォルダをエクスプローラで開く為に登録しています。

VSCode のキャラクタセットはデフォルトは **UTF-8** ですが、設定によって言語や拡張子に従って **SHIFT_JIS** で開く事ができます。しかし、設定外でどうしても **SHIFT_JIS** でテキストファイルを開きたい場合は、ステータスバーのキャラクタセット表示部分をクリックして を選択してください。

VSCode の運用で最も重要になるのが、コマンドの実行を行う の扱いです(これを一つずつ閉じるショートカットは + **F10** に登録しています)。

既定の設定では、 キーで**全てのコマンドの表示**(コマンドパレット)という機能が割り当てられています(エディタが開いている時、この時先頭に表示されている > を削除して を入力した後数字を入力するとその行番号にジャンプします)。この機能で表示される入力フィールドから **VSCode** で定義されている内部コマンドを実行する事ができます。このコマンドパレットで Display Language と入力すると、VSCode そのものの使用言語を設定できますので、日本語拡張導入時等で日本語にならない時に実行してみてください

エディタの設定として、**editor.renderWhitespace** の設定は、 にして下さい。**boundary** でも構いませんが、明示的に全てのスペースを可視化するのはプログラマにとって重要です。

設定ファイル内の値の候補をエディタで開いた JSON で表示するには、現在の値の直前にカーソルを置いて + **SPACE** キーを押します。これは、全ての**言語**で有効な**候補の表示方法**です。登録されている**言語の一覧**は、エディタで何かファイルを開いている状態でコマンドとして **change language mode** を実行すれば良いですが、ショートカットとして CTRL + を押してから両方離して キーを押すと表示されます。(または、ステータスバーの右下に**現在の言語**が表示されているのでそこをクリックします)

HELPメニューの を選択すると、見慣れた Chrome のデベロッパーツールが表示されます。つまり、VSCode は Chrome のテクノロジーを使用している事が解ります。その流れで、VSCode の全体の表示を拡大するのは CTRL + キーです(初期値に戻すのは CTRL + です)。拡大や縮小を行うと、設定ファイルに **window.zoomLevel** として書き込まれますが、既にその設定がされている設定ファイルのスコープ内で実行すると、それが書き換わり、どこにも無ければ基本となる設定ファイルに書き込まれますが、その場合値が 0 になると設定が削除されます(基本設定ファイルを開くショートカットは + + **S** に登録しています。使用中のワークスペース用の設定ファイルを開くのは、同様に + **W** です)

また、 キー で同様に全画面表示となり、CTRL + の後 **Z** キーで **Zen モード**となつて**ソースが全画面**となり ESC 二回で元に戻ります。